

「車いすでの経験から」

(参観のキーワード：相手の立場に立って考える)

— 学習すること (ねらい) —

◎相手の立場に立って考え、誰に対しても温かい心で接しようとする心情を育てることができるようにします。



— ねらいとする道徳的価値は —



6年生になり、学校のリーダーとしても自覚をもち、下級生に対して優しく接する姿が学校生活の中で多く見られるようになってきました。これは、今まで自分たちが上級生に親切にしてもらった経験をもとに相手の立場に立って考えているからこそできることです。

しかし、自分の経験をもとに相手を理解することはできてもそれ以外の部分では、まだ難しい部分があります。人は社会の中で互いに支え合って生きています。自分が経験していないことでも、他者の良さや心情を理解し、尊重や感謝しようとする心情と態度を育てていきたいと思えます。

— この授業で使う資料について —

今回の授業では、主人公の男の子がおばあさんに親切にする場面から始まります。今までの自分であったならば、おばあさんに親切にすることはできなかったはず。それなのになぜできるようになったのか……。男の子自身が体験したことをもとに、人に親切にするということはどういうことなのか、という質問を通して、人に親切にするこゝの意味を考えます。

— 学習活動と主な発問 —

1 今までに困ってしまった経験を考える。

○どんなことが困ったか。どんな気持ちだったかを考える。

2 資料「車いすでの経験から」を読んで話し合う。

○親切にしてもらった「ぼく」の気持ちや親切にしてくれた人の気持ちを考える。

3 自分のことを振り返る。

◎自分の生活で人に親切にできたことを振り返る。振り返りの発表をする。

4 まとめをする。

○学習の感想をワークシートにまとめる。



— 子どもたちのこんな姿を期待します —

自分ができなかったことを振り返るのではなく、ちょっとしたことでも人に親切にできた、みんなのために頑張ってみた、という前向きな振り返りをしたいと思います。その活動を通して、周りの友達、家族、身近な人に対する感謝の気持ちをもてるようになってくれればと考えています。